

「三瓶廻り」カノープスの撮影

竹内 幹 蔵*

Photographing of "Sanbemawari (Canopus above Mt. Sanbe) "

Mikimasa Takeuchi

三瓶山の上に見えるカノープス（りゅうこつ座 α ）は「三瓶廻り」と呼ばれる。「三瓶廻り」を撮影したので報告する。

Canopus (Car α) seen above Mt. Sanbe is called "Sanbemawari". I photographed "Sanbemawari" and report it.

キーワード：カノープス、三瓶山、三瓶廻り、日御碕、撮影、南中

1. はじめに

カノープス（りゅうこつ座 α ）は、実視等級が -0.7 等で、シリウス（おおいぬ座 α ）に次いで全天で2番目に明るい恒星である。赤緯 -52.7° に位置している（図1）ため、本州では関東より南の地域で、南の地平線のわずか上に見られる。島根県出雲市大社町日御碕付近では、南に位置する三瓶山を囲むように動いて見えることから、「三瓶廻り」と呼ばれていた（野尻, 1973）。以前に本研究報告で、日御碕付近から実際に「三瓶廻り」が見られることを検証した（竹内ほか, 2008）が、その後何度か撮影を行ったので報告する。

2. 撮影地

日御碕は三瓶山のほぼ真北に位置する。したがって、そこから天体を見ると、その天体は三瓶山の上で南中する。三瓶山頂の経度は東経132度37分18秒で、厳密にはその経線のわずか東に島根半島の日御碕地区がある（図2）。なるべく三瓶山頂に近いところで南中するカノープスを撮影するために、三瓶山頂の経度に近い撮影地を選んだ。

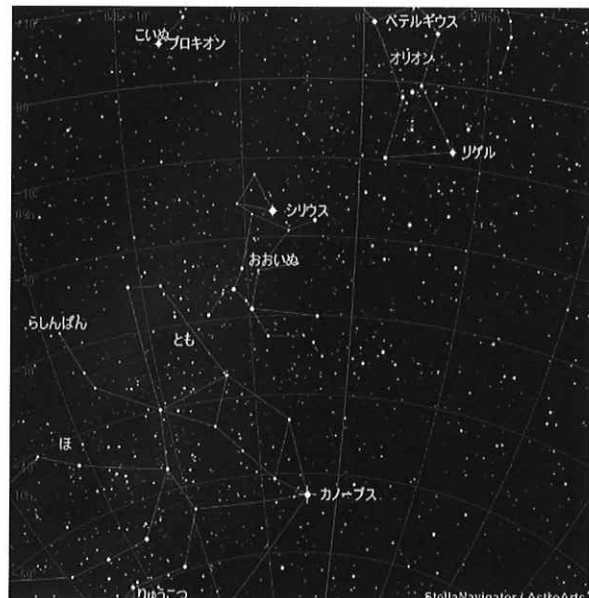


図1 カノープスの位置

撮影地の一つは、日御碕地区を通る県道29号線沿いの展望所（図3の①）で、駐車場と展望デッキがある。前回の報告（竹内ほか）での観測地は、自動車の明かりを避けたそれより西のドライブイン下（図3のa）であったが、フィルムカメラを使用した当時と異なりデジタルカメラでは撮影への明かりの影響を少なくでき

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8 Tane, Sanbe-cho, Ohda, Shimane, 694-0003, Japan

るため、行きやすさからここを選んだ。もう一つの撮影地は追石鼻(図3の②)で、県道29号線から徒歩で追石鼻線歩道を進むと展望広場がある。ここは島根半島の西端に当たり、日御碕地区の中でも三瓶山の真北に最も近い場所である。

撮影地の経緯度と標高は、表1に示す。



図2 三瓶山と日御碕
国土地理院の電子地形図(タイル)に補助線を
追記して掲載

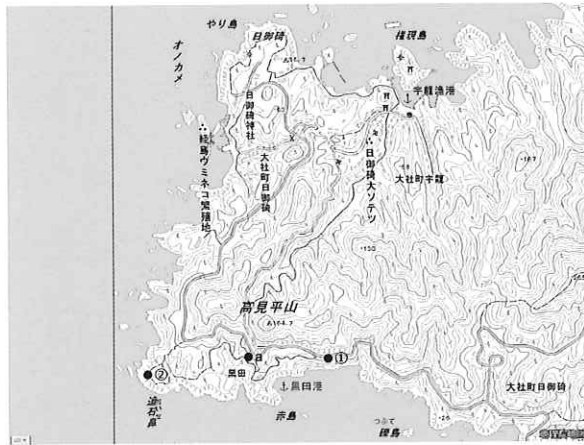


図3 日御碕地区における撮影位置
海上の直線は三瓶山頂の経度を表す
国土地理院の電子地形図(タイル)に記号等を
追記して掲載

表1 撮影地の経緯度と標高

観測地	①県道29号線沿いの展望所	②追石鼻・展望広場
緯度	北緯35度25分10秒	北緯35度25分07秒
経度	東経132度38分01秒	東経132度37分24秒
標高	50.8m	20.3m

3. 撮影事例

① 県道29号線沿いの展望所

図4では三瓶山が月明かりに照らされ対岸に見えた。カノープスの光跡は南中時刻を含む10分間の動きであり、この位置からだと三瓶山頂の東側で南中することが分かる。その後、三瓶山頂の上にカノープスが見えた(図5)。

以降の撮影も、三瓶山が見やすい月が出ている夜に行った。図6は南中時刻を含む1時間のカノープスの動きである。三瓶山の山体の上をカノープスが渡り切った。



図4 カノープスの南中時刻を含む10分間の光跡
2015年11月4日3:40~3:50 5mm F1.8
キヤノンPowerShot S120 ISO400
10分間の星の動きを自動合成
月齢21.8 カノープスの南中時刻3:43



図5 三瓶山頂の上のカノープス
2015年11月4日3:56 5mm F1.8
キヤノンPowerShot S120 ISO800 露出15秒
月齢21.8



図6 カノープスの南中時刻を含む1時間の光跡
2015年12月2日1:35~2:35
78mm F5 ニコンD7000 ISO3200
露出25秒を140枚合成
月齢20.0 カノープスの南中時刻1:53

② 追石鼻・展望広場

図7はカノープスの南中時刻をほぼ中心とした10分間の動きである。山体の上を水平に動いていることが分かる。

図8はカノープスが南中したところである。この撮影地からは三瓶山の山体の上、山頂のわずかに東で南中することがわかる。図9は南中時刻を中心とした30

分間のカノープスの動きである。図10は南中時刻を中心とした1時間30分のカノープスの動きで、三瓶山を中心に「廻って」いることがわかる。



図7 カノープスの南中時刻をほぼ中心とした10分間の光跡
2017年11月6日3:29~3:39 5mm F3.2
キヤノンPowerShot S120 ISO160
10分間の星の動きを自動合成
月齢17.0 カノープスの南中時刻3:33



図8 南中するカノープス
2017年11月10日3:17
55mm F4 キヤノン EOS Kiss X5 ISO3200
露出10秒 月齢21.0



図9 カノープスの南中時刻を中心とした30分間の光跡
2017年11月10日3:02～3:32
55mm F4 キヤノン EOS Kiss X5 ISO3200
露出10秒を144枚合成
月齢21.0 カノープスの南中時刻3:17



図10 カノープスの南中時刻を中心とした1時間30分の光跡
2017年11月10日2:32～4:02
5mm F1.8 キヤノンPowerShot S120 ISO800
露出13秒を90枚合成
月齢21.0 カノープスの南中時刻3:17

参 考 文 献

- 野尻抱影(1973)日本星名辞典. 東京堂出版, 東京, p170.
竹内幹蔵・太田哲朗・矢田猛士(2008)「三瓶廻り」カノープス
を見る. 島根県立三瓶自然館研究報告, 6, pp.57-58.